

1. 学校教育目標

学校教育目標 私たちは 未来へと進む 緑小のこども ☆ なかよく 元気に 遊びます ……からだ(体) ☆ すすんで 学び 考えます ……あたま(知) ☆ めあてをもって努力します……生きる力(意) ☆ 人や地球に やさしくします……こころ(情)
---

2. 学校の経営方針

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人がリーダーシップを発揮し学校運営にあたり、相互に報告・連絡・相談機能の徹底を図り、協働体制で円滑な運営に努める</li> <li>○創意を生かし、自己教育力を育てる教育課程の編成・実施、改善に努める</li> <li>○持ち味を生かした学年・学級経営の展開と開かれた経営の推進</li> <li>○校内研修の充実・研究課題解明のための積極的な実践検証と専門家としての資質や力量の向上</li> <li>○家庭・地域と連携し、地域に根ざした教育の推進</li> </ul> |
|---|

3. 本年度の重点目標

学校課題 「心豊かな子どもを育み 確かな学力を身につける」  本年度の重点目標 ・一人ひとりの理解を深め心の通う生徒指導 ・学ぶ意欲と心を育てる読書指導	<b>学校関係者の評価</b>	
	<b>目標設定の適切さ</b>	<b>本年度重点目標についての意見等</b>
	A	授業を参観させていただいたり、日頃からの様子を見せていただいたりして、学校教育目標や本年度の重点課題を意識した授業や各種の取り組みが行われていると感じた。子ども達の表情がとても明るく、適切な生徒指導が行われていると感じた。読書指導は学校、保護者、地域が一体となった取り組みが進んでいる。

4. 学校評価の方法

① 学校教育目標および今年度の重点に照らし、児童の変容が明らかになるような評価項目の作成と検討に努める。 ② 評価→目標設定→計画→実践→評価のサイクルを基本とする。 ③ 次年度計画に生せるように、各分掌で重点化した評価項目の作成に努める。可能な範囲で精選を行う。 ④ 評価の対象は次の通りとする。 内部評価(自己評価) : 教職員 外部アンケート : 保護者 学校関係者評価 : 学校評議員・PTA会長による評価委員会	<b>学校関係者の評価</b>	
	<b>評価方法の適切さ</b>	<b>学校評価についての意見等</b>
	A	子どもたちがとても明るく生き生きしている。学校の教育活動が適切に行われていると感じる。先生たちは謙遜して自己評価を厳しく付けすぎていると感じる。自信を持っていただきたい。保護者アンケートでは、回収率が高いことと全体的な保護者の評価が高いことがわかった。学校だよりや学級通信、ホームページなどで学校の教育活動を詳しく伝えていることが効果を上げていると思う。

5.自己評価・学校関係者評価の結果と改善の方策

NO	自己評価の結果				学校関係者評価の結果	
	評価項目		達成状況	取り組みの適切さ	自己評価結果の適切さ	学校関係者評価の結果 自己評価項目、取り組みの適切さ、自己評価の結果に基づく改善の方策等についての意見
	大項目	小項目				
1	学校経営	学校教育目標と学校課題を日常の教育活動の中で具体化する実践を行ったか。	A	A	B	先生たちは謙虚すぎて自己評価を厳しく付けすぎていると感じる。緑小は、北海道教育委員会の「北海道教育の風景」で、非常に高く評価していただいているのだから、先生達はもっと自分たちの仕事に自信を持ってほしい。」
		協働体制にもとづく学校経営は実現できたか。	B 36・36・27・0	A		
	<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 学校教育目標を具体化するために、今年度は「豊かな心確かな学力の育成」を学校課題とした。読書指導を中心とした学校改善プランに取り組む中で、意識的に学校課題にせまる実践を行った。 職員の協働体制は充実していたが、分掌業務内容に負担の偏りがあったため、改善したい。				<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 子どもたちの表情がとても明るい。また、今年度は、校舎の外装や内装を塗り直してもらって、学校の雰囲気も明るくなった。青葉公園の花の写真を掲示したおやじの会の手による額もすばらしい。学校に来ることを、子ども達が楽しいと感じるような環境になっている。	
2	研修活動	学び合う校内研修は実践できたか。	A 64・32・5・0	A	A	子どもたちのようすなどから、適切に研修をすすめてきたことがうかがえる。
		各種研修会参加など資質向上のための取り組みは適切に行われたか。	A 64・36・0・0	A		
	<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 「外国語活動のあり方」という避けて通ることができない今日的な課題を研究のテーマとしたことにより、学び合いながら手有意義な校内研修をすすめることができ、今後の方向性が見えてきた。				<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 外国語教育は重要な課題であるので、今後も大切にして授業を行っていただきたい。	

3	教育課程	<p>創意を生かし、自己教育力を育てる教育課程の編成・実施・改善に努めることができたか。</p>	B 18・68・14・0	B	A	<p>科技大の実験授業、カヌーの体験、アイヌ文化の学習など、知識だけの授業ではない大切な力を育てていただいている。体験で学んだことはいつまでも残るので大切にしてほしい。</p>
		<p>新学習指導要領の先行実施の取り組みや、23年度完全実施に向けた取り組みは適切に行われたか。</p>	A 45・45・9・0	A		
		<p><b>自己評価に基づく改善の方策</b> アイヌ文化の学習、カヌー体験、地域の社会福祉協議会と連携した授業など、創意を生かす教育課程の編成に努めた。しかし、自己教育力実現という大きな課題を解明するためには、価値の内面化をはかる工夫など一層の充実が必要である。 新しい学習指導要領の先行実施にともない、外国語活動や総合的な学習の時間を中心に各領域の教育課程を見直し、教育の今日的課題の解決にせまるよう取り組みを進めることができた。</p>				<p><b>改善の方策を進める上での工夫</b> 説明を聞いて、緑小が取り組んできた「表現力育成、科技大との連携、アイヌ文化学習、道徳教育、体験活動、外国語教育」などは、新しい学習指導要領の主な改善事項を先取りしていると感じた。新しい学習指導要領のねらいが実現できるように今まで取り組んできた教育活動を発展させていきたい。</p>
4	学習指導	<p>基礎基本の重点化を図り確かな学力を定着させる授業づくりができたか。</p>	B 29・59・14・0	B	A	<p>本日も含め今まで参観した授業の中で、先生たちが確かな学力を定着させる授業づくりに取り組んでいる姿勢を見ることができた。</p>
		<p>コミュニケーション能力や理科・数学教育の充実など、今日的な学習指導の課題を受け止めた取り組みを進めることができたか。</p>	A	A		
		<p><b>自己評価に基づく改善の方策</b> 学力の向上をめざす取り組みとして、本校では、学力学習状況調査(6年)標準学力検査(2～6年)の結果に基づく各学年の学力の実態把握と分析、TTの効果的活用による少人数指導の充実、日課表に位置づけた朝読書と朝学習の取り組み、年間計画に位置づけた「漢字がんばり月間」の取り組み、学年の発達を見通した宿題と家庭学習の申し合わせと家庭への啓蒙、数値目標を設けた国語力調査の実施を行ってきた。 学習指導要領の重点項目として取り上げられたコミュニケーション能力や理科・数学教育の充実については、研究課題として設定した外国語活動をはじめ、各教科の中で表現力を高める取り組みを進めると共に千歳科学技術大学と連携した実験の学習を行っている。</p>				<p><b>改善の方策を進める上での工夫</b> 学力学習状況調査は、保護者はもちろん市民の間でも注目されているので、その結果を生かした学習指導の改善を進めていただきたい。</p>
5	道徳教育	<p>豊かな心を育てる教育活動ができたか。</p>	B 18・68・14・0	A	A	<p>しっかりとした取り組みが行われている。学芸会などを見ても、豊かな心を育てる取り組みが行われていると感じた。</p>

		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 本校は、「豊かな体験活動を生かした道徳指導の工夫」(平成16年度・17年度文部科学省指定)を発展させ、地域の教材(人・自然・文化)とのふれあいを大切にしながら、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通して道徳教育を行い、他校や教育関係者から高く評価されている。「心の教育」という教育の根元的な課題に対して、教職員が慎重な自己評価を行った結果と考えるが、教育活動全体を通じて行う道徳という新しい学習指導要領の考え方を先行して行ってきたのが本校の道徳教育であることを教職員に自覚させ、一層充実した取り組みに努め、子ども達の心を豊かに育てていきたい。また、今後もこれまでと同様に確実に時数の確保を行っていく。		<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 地域の人・自然・文化を教材とした道徳教育が行われていることを評価したい。学校の教育活動全体を通して行う道徳教育を一層充実させることが大切であるとする。		
6	特別活動	児童会書記局や各委員会の活動内容・組織や各種集会は適切だったか。	B 36・55・9・0	A	A	様々な場面で、児童会の子どもたちはとも立派に活躍していた。
		クラブ活動は現行通りでよいか。	B 32・59・9・0	B		
		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 本校児童の落ち着いた学校生活に、児童会や各委員会の意欲的な取り組みが重要な役割を担っている。活動は、ボランティア活動の推進、運動会や学芸会の運営、みんなで給食の会、挨拶運動、図書の貸し出し、校内放送、体育的な集会の企画など多岐にわたっている。自己評価の中では、全校集会の持ち方について改善すべきという意見があったため、平成22年度は、「おはよう集会」を計画的に設定し、児童会の活動場を増やすことにした。クラブについては、現状通りの時数を確保し、指導の充実に努めたい。		<b>改善の方策を進める上での工夫</b> ボランティア活動については、学校評議員としても一層積極的に協力していきたい。		
7	総合的な学習の時間	グローバルスクール事業は適切に進められたか。	A 59・27・14・0	A	A	適切にすすめられていると思う。
		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 豊かな経験をされている地域の方に講師をお願いし、自然、人権、福祉、環境、伝統文化等を体験的な学習を通して学び、成果をあげることができている。今後、総合的な学習の時間の時数が縮減される中、これまでの成果を可能な限り継続できるよう、時数と内容の見直しを図り、教育課程の編成を冬季休業中に行った。		<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 学校評議員の中にも、総合的な学習の時間の講師をしている人がいる。新しい学習指導要領の中で体験的な学習が重視されているので、一層協力していきたい。		
8	生徒指導	心の通う生徒指導の充実を図り、一人ひとりの理解を深め、可能性を伸ばす学級・学年経営は実現できたか。	B 23・68・9・0	B	A	挨拶もとても立派にできているし、子どもたちの表情がすごく明るい。以前は朝にしょぼんとした顔をして歩いている子どもがいたが、今は全員がいい顔をして歩いている。学校に行くのが楽しいという子ども様子が伝わってくる。
		校内生活指導は適切に行われていたか。	B 45・55・0・0	B		

		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 今年度は、いじめと不登校共に早期に発見し、解決することができた。この問題はどの学校でも起こりうると考え、日頃から教職員の研修や児童に対する啓蒙を行っている。今後も、心の通う生徒指導を充実させ、子ども達が安心して生活できる学校づくりを、教職員、児童、保護者始め、関係者の総意でつくり上げていきたい。			<b>改善の方策を進める上での工夫</b> いじめや不登校は、どのように状況を把握し、どのように解決していくかが大切である。子育てネットワークやPTAでも、話題にするようにしたい。	
9	健康・安全教育	命を大切に健康・安全指導は充実していたか。	B 23・73・5・0	B	A	子育てネットワーク協議会と千歳っ子見守り隊の活動を保護者にも知ってもらう機会として、参観日に子ども達との対面式を行った。この他にも安全を守る様々な取り組みをしていることがわかった。
		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 千歳っ子見守り隊との対面式、CAPやALSOK防犯教室など、交通安全教室など安全指導に充実した取り組みが見られた。食の指導は今後、学校栄養職員と連携しながら、系統的にすすめていく必要がある。				<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 子どもたちの安全を守る取り組みとして、子育てネットワークと千歳っ子見守り隊に学校として期待することを遠慮なく出してみたいと思う。
10	特別支援教育	校内特別支援委員会は、支援が必要な児童の情報を集め、支援策は適切に行われたか。	A 55・41・5・0	A	A	適切にすめられていると思う。今回はことばの教室の様子を見ることができて参考になった。
		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> コーディネーターを中心に校内特別支援委員会が適切な対応を行うことができた。特にことばの教室の職員から、専門性をいかした具体的かつ的確な助言を得ることができた。今後も研修の充実を図り、多様なニーズに対応した特別支援を行っていきたい。				<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 平成23年度に「ことばの教室」全国大会の会場校になるということなので、協力できることがあれば、申し出てほしい。
11	キャリア教育					
		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 校区の中学校が総合的な学習の時間の中心課題として取り組んでいるため、義務教育の範囲で十分な成果をあげることが可能と判断しており、この分野に取り組む計画は持っていない。				<b>改善の方策を進める上での工夫</b>
12	ふるさと教育	学校、家庭、地域との連携し、地域に根ざした教育を推進できたか。	A 66・34・0・0	A	A	ホームページを見ながら、緑小学校の教育活動が、地域の力を生かしながらすすめられてきていることを再認識した。地域・保護者と先生達と一緒に子どもを育てようとしている緑小の良さが伝わってくる。
		地域の人材を活用した教育活動を進めることはできたか。	A 64・36・0・0	A		

		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 自然環境を生かし命の大切さを学ぶ千歳川カヌー体験や動植物に触れる日常的な自然体験活動、地域アイヌ協会と連携した地域に伝わるアイヌ文化と人権の学習の学習、出前授業や大学訪問によって千歳科学技術大学の授業を受ける取り組み、図書ボランティアの活躍など、地域との連携や地域人材の活用などは、本校の特色ある教育として注目されているところである。総合的な学習の時間の時数縮減に伴って、内容を見直しと精選をはかることができた。なお、こうした取り組みを、ホームページやパンフレットなどで紹介しているため、保護者や地域からの支援が拡大する傾向にある。		<b>改善の方策を進める上での工夫</b> アイヌ文化を体験として学び、様々な文化や人々を尊重し合う気持ちを育てることは、共に生きる社会を作る上でかけがえのない経験となる。アイヌ協会の代表として、講師の派遣など協力を惜しまないので、連携を一層強化して、子どもたちにかげがえのない経験をさせてほしい。	
13	<b>今日的な教育の課題</b> 読書指導や図書館の活用を学校課題(確かな学力豊かな心)実現に生かすことができたか。学校図書館の利用指導や読書指導の、企画・運営は適切であったか。 環境教育に取り組むことができたか。	A 55・45・0・0	A	A	読書指導の充実についてはすぐれた企画力に驚いている。学校と保護者が一体となった取り組みのすばらしさが子どもたちを育てていると感じた。
		<b>自己評価に基づく改善の方策</b> 学習指導要領改訂の重点事項の中で、言語活動の充実は重視されており、読書・図書館教育の重要性は、一層大切にすべきと考える。本校では、学習情報センター、読書センターとしての学校図書館機能の充実を図る取り組みを、教職員と図書ボランティア協力により継続してきた。緑小の特色ある教育に位置づけて、一層発展させたい。環境教育については、各学年で植林や川の学習などに取り組んできた。平成22年度は「郷土に根ざし地球に視野を広げる実践的な環境教育の推進」を学校経営方針の一つの柱とすることにしており、総合的な学習の時間の教育課程に位置づけて系統的に取り組む予定である。		<b>改善の方策を進める上での工夫</b> 地域の幼児と低学年児童を対象としたお話し会「ぴっころ」の取り組みによって、幼児や低学年の保護者は学校図書館と図書ボランティアの活動を身近に感じることができている。新聞で紹介されて、このような取り組みを知る人が多くなったが、いろいろな方法で、輪をひろげていきたい。	

## 6. 今後の方向性についての校長所見

これまで本校では、文部科学省指定の道徳教育研究の課題を継承し「豊かな体験活動」に取り組んできて成果を上げてきた。今後は、その流れをさらに綿密な計画や指導のもと発展させて行きたい。そして学校課題である「心豊かな子どもを育み 確かな学力を身につける」ことや「居場所のある学校」「地域と共に歩む学校」「環境教育の充実」を軸として教育活動を展開していく。

通学路ボランティアの運営、地域アイヌ協会と連携したアイヌ文化の学習、地域の自然を愛し命の尊厳を学ぶカヌー学習、科学技術大学の協力を得ての科学の学習、図書ボランティアと連携した全校読み聞かせなど地域との結びつきは極めて強い。

学校関係者評価委員の皆様は、それぞれの専門性を生かして上記のような活動の中心として子どもたちを指導し学校に協力している方々であり、子どもたちをしっかりと把握している。

また新学習指導要領に基づく新たな教育課程の編成についても具体的で建設的な貴重な意見をいただき既に本校の教育に生かしているところである。また今回の学校関係者評価については、保護者や学校評議員から極めて高い評価をいただき学校としては、心強い限りである。

学校教育は、「地域」「家庭」「学校」の三者によって完結される。三者それぞれが、役割を担い、相互の信頼でしっかり結ばれる姿を示すことで、子どもたちの知徳体を豊かに育て、学校教育目標を具現化していく。